

港区区政会議 こども青少年部会

【平成30年度 振り返り】

人権、教育 2つの戦略

人 権

3 - 5 多様性を尊重しあう共生社会づくり
の推進

教 育

4 - 1 「子どもの学び」の応援

戦略3 - 5 多様性を尊重しあう共生社会づくりの推進

【めざす状態】＜概ね3～5年間で念頭に設定＞
多様性を尊重しあう共生社会づくりが進んでいる

【平成30年度の目標(アウトカム)】

「一人ひとりの人権が尊重されているまちである」と答えた区民の割合
毎年1%以上あげる(目標 32.7%)

状況 27年度 29.7% 28年度 25.6% 29年度 31.6%

30年度 32.7% 30.7% 未達成

多様な学習機会を提供するなど、さまざまな人権課題について市民協働的な
手法で啓発に取り組むとともに、人権啓発の新しい担い手づくりを進める

戦略3 - 5 多様性を尊重しあう共生 社会づくりの推進

具体的取組

区における人権啓発推進・人権相談

【平成30年度の目標】

人権啓発事業の参加者のうち、人権問題への関心や意識を高めるうえで
役立ったと思う人の割合：80%以上 81.5%

達成

戦略3-5 多様性を尊重しあう共生社会づくりの推進 具体的取組 区における人権啓発推進・人権相談

ア．人権展、人権講座等

- ・人権展・人愛ふれあいプラザ(11月30日～12月4日)

- ・人権講座

 - 9月22日 SCによる「不登校の理解とこどもへの接し方」講演会

 - 12月2日 地域食堂から学ぶ『共生のまちづくり』

 - ～新たな担い手、新たなつながりの創出～

 - 12月3日 誰も取り残さない社会に向けて人権のルール化を

 - ～SDGsと差別を解消するための3法～

 - 12月4日 発達性協調運動障害(DCD)とは

 - ～不器用と言われる子どもたちへの理解と支援～

人権展の様子



「発達性協調運動障害(DCD)とは」の様子



戦略3-5 多様性を尊重しあう共生社会づくりの推進 具体的取組 区における人権啓発推進・人権相談

イ．LGBT(性の多様性)への取組み

- ・レインボーカフェ3710(当事者やアライによる集い)を開催(毎月1回)
- ・レインボーみなりんプロジェクトの推進
- ・区民まつりに啓発ブース出展
啓発パネル展示、啓発資料・グッズ配布、LGBT関連図書の展示、手話講習
- ・八幡屋スポーツみどりフェスティバルに啓発ブース出展
啓発パネル展示、啓発資料・グッズ配布、LGBT関連図書の展示
- ・レインボー3710 LGBT×アライ交流会
- ・成人式でレインボーカフェ3710の周知用の啓発物品配布

区民まつりでの様子



レインボー-3710 LGBT×アライ交流会 での様子



戦略3 - 5 多様性を尊重しあう共生社会づくりの推進 具体的取組 区における人権啓発推進・人権相談

ウ．人権週間事業(12月4日～10日) 懸垂幕掲出 街頭啓発1回

エ．チラシ・情報誌等の掲出(年10件以上)

- ・チラシ作成配布: 5件

ヒューマンハート、レインボーカフェ3710、人権展かかるLGBT×アライ交流会 等

- ・区広報紙への掲載: 7件

就職差別撤廃月間、特設人権相談所、みなと人権展 等

- ・区ホームページへの掲載: 5件

人権に関する法律、レインボーみなりんプロジェクト、みなと人権 等

- ・区役所行政モニターでの放映

人権、教育 2つの戦略

人 権

3 - 5 多様性を尊重しあう共生社会づくり
の推進

教 育

4 - 1 「子どもの学び」の応援

戦略4-1 「子どもの学び」の応援

【めざす状態】 < 概ね3～5年間で念頭に設定 >

子どもの学び力、生きる力を育む環境づくりが進んでいる。

学校、家庭、地域の連携により、家庭学習が習慣になっている子どもの割合を増やす。

【平成30年度の目標(アウトカム)】

○平成30年度末までに適正配置の対象となっている小学校の適性配置計画を策定する。

○「授業時間以外の1日あたりの勉強時間」が「30分より少ない」、「全くしない」と答えた児童・生徒の割合の合計を各校の現状値(平成27年度)から平成30年度に5%改善する。

未策定

中・長期的な児童数の推移を慎重に見極める必要があり、中・長期的な児童数の増加が見込めないと明らかになった場合は適正配置計画の策定を行うこととし、この方向性について区のホームページにも掲載した。

平成29年度より約8割の学校で改善(未測定の1校を除く)

H27年度は区民モニターアンケートの「家庭学習が習慣になっていると思われる」割合を、H28年度は「子どもの生活に関する実態調査」の「授業時間以外の1日あたりの勉強時間」が「30分より少ない」、「全くしない」と答えた児童・生徒の割合の30.4%を、H29年度及びH30年度は学校アンケート等での各校ごとの改善状況により達成状況を確認した。

戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援

具体的取組

分権型教育行政の効果的な推進	達成
学校の規模や配置の適正化など横断的な課題解決の取組み	未達成
家庭学習の促進	達成
地域の強みを活かした教育力向上	達成
多文化共生教育スタートアップ事業	未達成(未測定)
学校園における福祉的課題をかかえる児童生徒への支援	達成
発達障がいサポート等	達成
港区サードプレイス・不登校児童生徒支援	達成
青少年の健全育成の推進	未達成

戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援 分権型教育行政の効果的な推進

- ・教育会議(区政会議こども青少年部会)の開催: 2回
- ・学校協議会委員への研修: 6月1回
- ・区教育行政連絡会の開催: 小学校3回、中学校4回
- ・区内17校園の学校協議会への区職員の出席: 17校園 × 3回
- ・区小学校長会・教頭会への出席・連絡調整: 各11回

【平成30年度の目標】

- 区内において、学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる「保護者・区民等の参画のための会議」の委員の割合: 30% **78.6%**
- 学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる小・中学校の学校協議会委員の割合: 30% **95.1%**

- 自校において、学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる小・中学校長の割合: 20% **100%**

戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援

学校の規模や配置の適正化など横断的な課題解決の取り組み

保護者や地域住民、学校関係者の多様な意見・ニーズをくみ取り、学校だけでは解決できない学校の規模や配置の適正化など横断的な課題に対し、総合的に学校を支援するとともに、課題解決に向けた取り組みを行う。

【平成30年度の目標】

「適正配置計画」を作成する。 **未策定**

【目標未達成の原因分析】

平成29年から社会増減で転入超過となっており適正配置の対象校区はそれぞれ中・長期的に人口が増加する可能性があることから、小学校の統合は長期的な児童数の推移を慎重に見極める必要がある。

このため、30年度の「適正配置計画」の策定は見送ることとした。

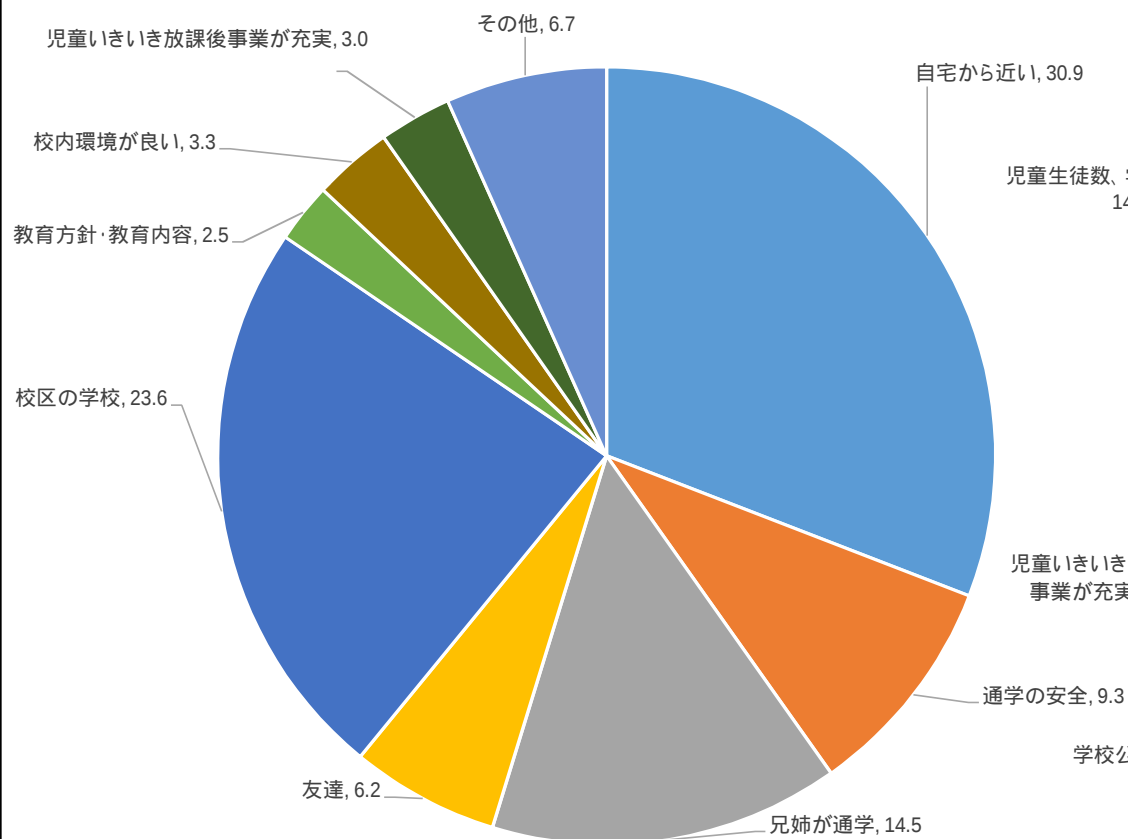
【改善策】

長期的な児童数の推移を慎重に見極めるとともに、中・長期的な児童数の増加が見込めないと明らかになった場合は、適正配置計画の策定を行う。

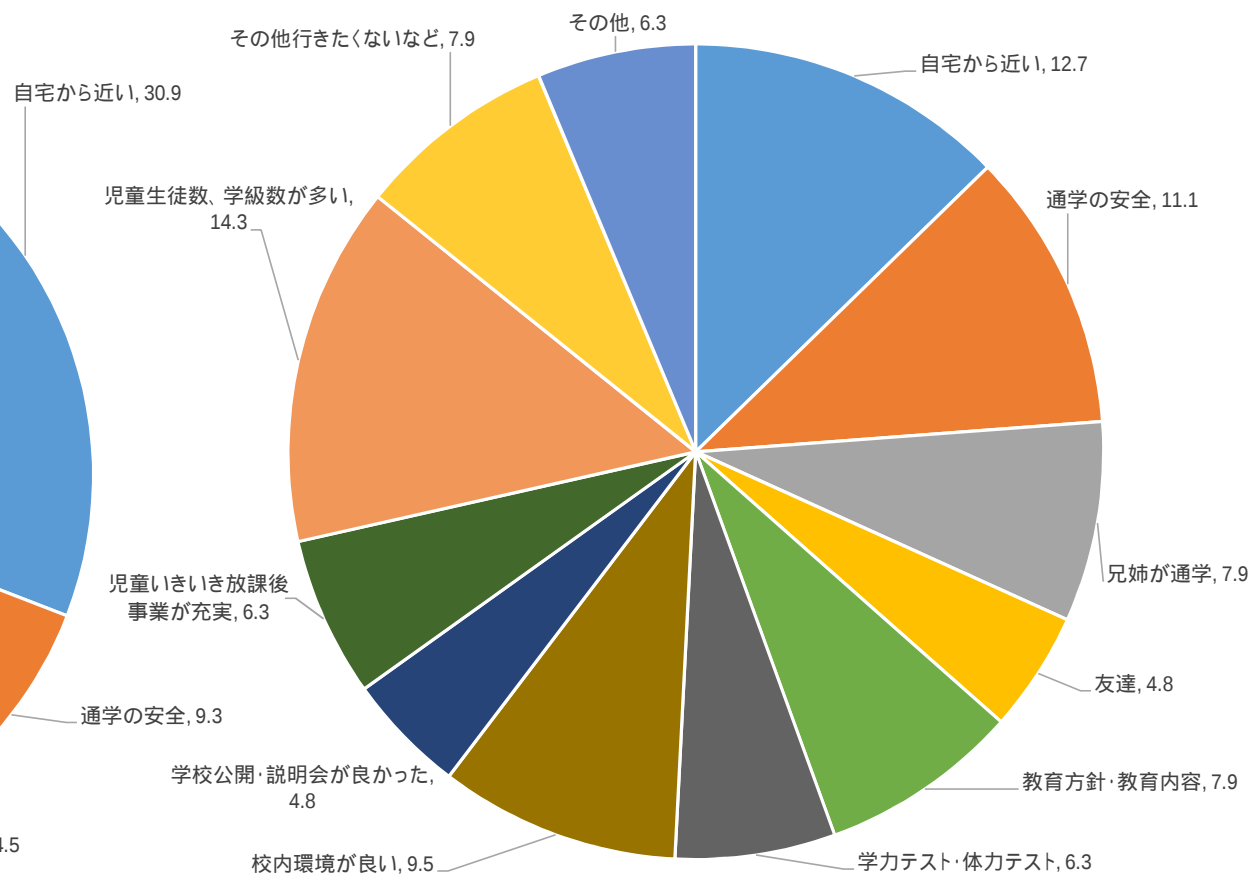
なお、単学級の解消は必要なことから、**引き続き単学級解消策についての検討を進める**。

【参考・小学校】学校選択制のアンケートから窺えること

「校区の学校」を選択した方の選択理由(%)



「校区外の学校(学校選択制)」を選択した方の選択理由(%)



【参考・小学校】学校選択制のアンケートから窺えること

「校区の学校」を選択した方のその他理由

自身の母校だったからです。 治安・環境がよくなかったから。
教育内容が充実している学校希望していたが受入が困難であった。
一番仲良しかった友達とはなれてしまった。
GPSなどの通学したお知らせメールが届くのが良かった。
制服だったから選んだ。

など

「校区外の学校(学校選択制)」を選択した方のその他理由

校区の学校は人数が少なすぎる 学力テストの結果があまりにも違ったので。
制服がなかった。(逆の「制服があるから」もあり)
両親の仕事上いきいきでは時間合わず〇〇にある学童保育を利用する為校区である 小では遠い利用者がいないことから
校区の児童数が減りすぎて、子供がかわいそうだった。など

「校区の学校」を選択した方のご意見

選択できる自由があるのは良いことだと思いますが、通学路の安全や通学手段が充実していないので、結局は自宅近くの小学校を選択することが多いと思うので、そこまで意味はあまりないかとも思います。

学校選択制度に少し疑問を持っています。子供に何らかの理由が無い限りは校区内に通わせれば良いと思っています。学校の人気等で人数の偏りがひどく入学の際は不安を感じました。子供にとって選択制度が本当に必要なのか？という事をもう一度考えて欲しいです。

学校を選択でき学びたい、行かせたい学校を選べるのは良いと思う。人気の学校の特色を他校もマネて、よりよい学校づくりにして欲しい。

人数のかたよりがありすぎだと思います。選択制にするなら少人数の近隣学校同士合併など考えてほしいです。もしくは選択できるのは自宅から学校までの校区、校区外のキョリの近い方を選ぶなどにしてほしいです。校区外を選んで登下校送り迎えもどうかと思います。

など

「校区外の学校(学校選択制)」を選択した方のご意見

隣接していなくても近くなら選択できるようにしてほしい。

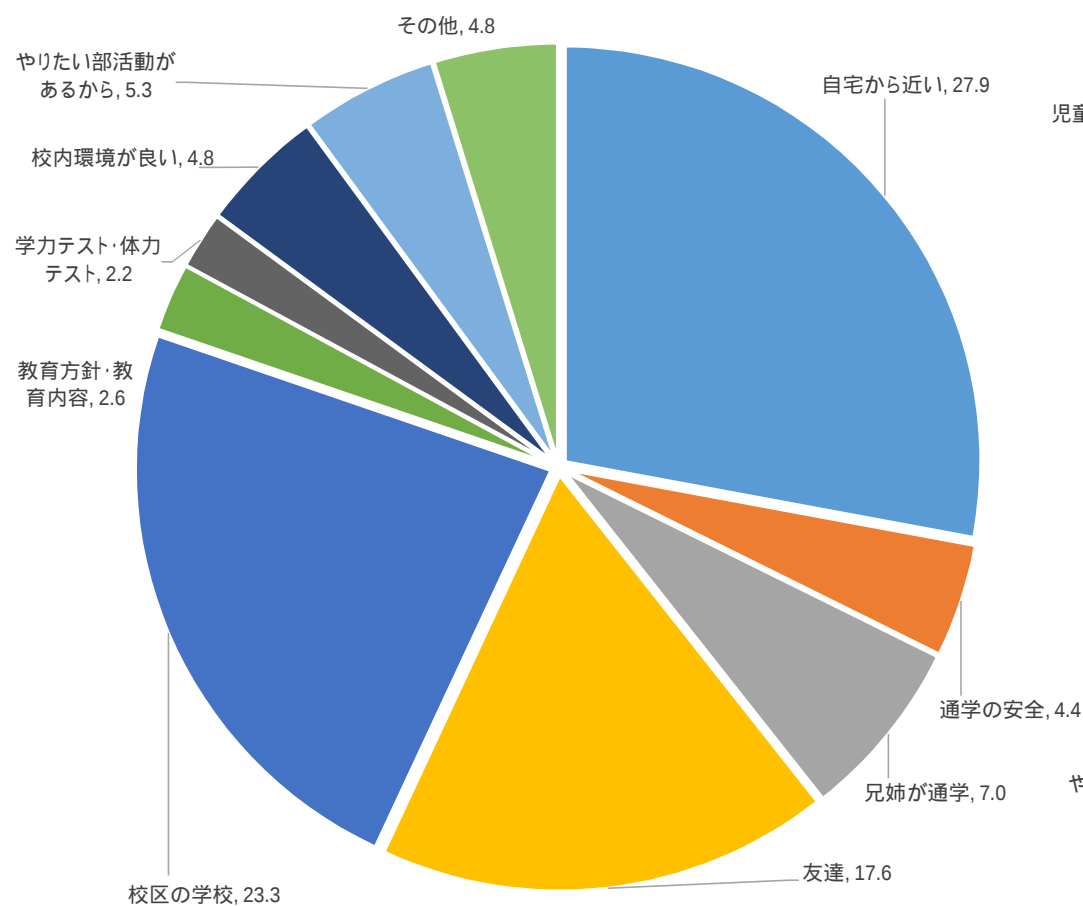
色々な条件で校区外の学校へ行きたい人もいますので選択制はありがたい。

近い校区は親の送り迎えを免除して欲しい。(これがネックでずいぶん悩んだ。)現在も負担に感じている。また、子供も“自分一人で遅刻しないように登校する”という意識が育たない。これ以外は、選択制で校区外の小学校を選んで本当によかったと感じている。子供も楽しそうに過ごしているし勉強も頑張っている。学校の学習指導、いきいきが充実している！！

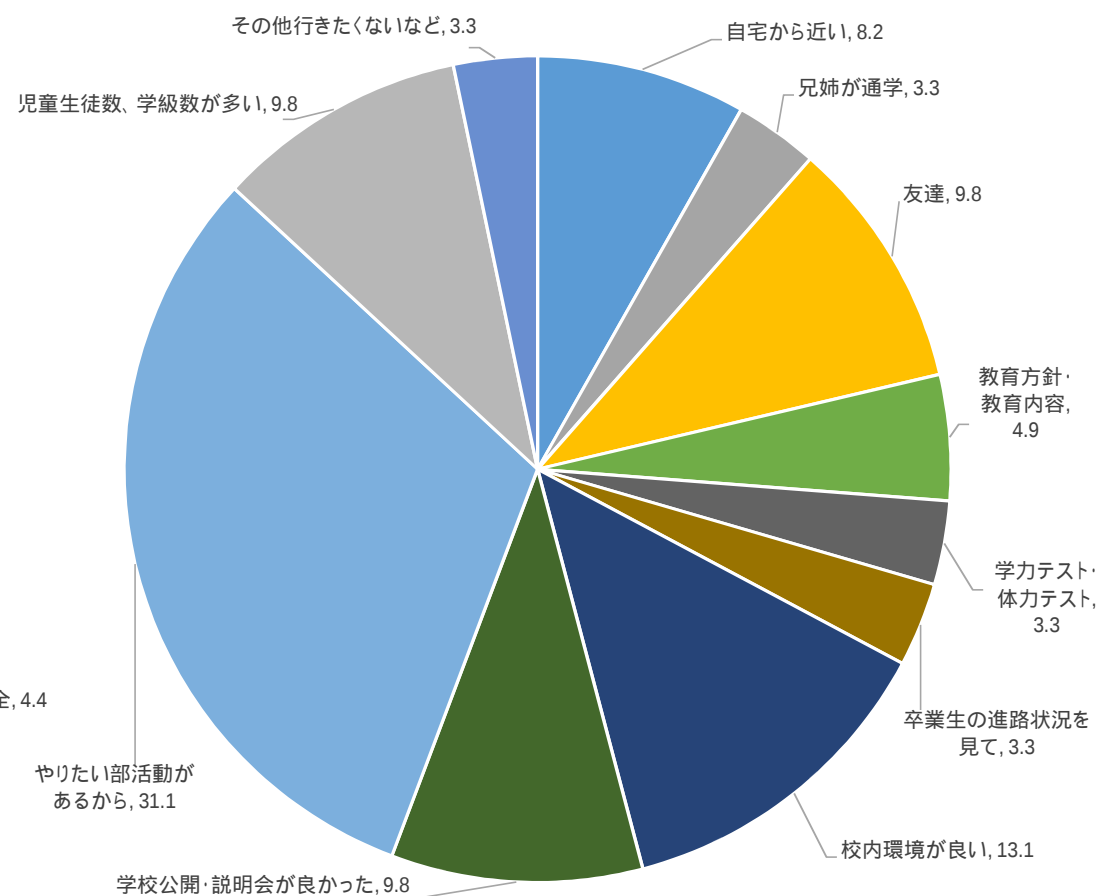
地元の活性化としては、校区の学校に通う方がいいのかもしれませんが、選択できることにより、いろいろ見学し、雰囲気を感じることができ、本人も納得して決められたので、我が家は良かったです。ただ中学で同じことをするのがちょっと不安でもあります。(思春期に入ると)など

【参考・中学校】学校選択制のアンケートから窺えること

「校区の学校」を選択した方の選択理由(%)



「校区外の学校(学校選択制)」を選択した方の選択理由(%)



【参考・中学校】学校選択制のアンケートから窺えること

「校区の学校」を選択した方のその他の理由

校区外に行っていじめられたらいけないから

など

「校区外の学校(学校選択制)」を選択した方のその他理由

PTA役員などを受けたくなかったから

少人数の学校にもかかわらず、親同士、子供同士で力の差があり、いじめのようなものがあって、いい雰囲気ではなかったから。

友人関係で嫌な思いをする事が多かったから

など

「校区の学校」を選択した方のご意見

クラブなどで人気のある学校に児童が集中しすぎてと思う。ある程度人数の制限しないとかたよってしまいPTA活動にも支障をきたすと思います。自身の問題ではないが選択先の学校よりの連絡が遅すぎると思う。制服や様々な用意で保護者の負担が大きいとも思います。

子どもの人数がへってきてるので、部活動もへってきています。自分やりたい部活動がなければ、今後他の中学をえらぶ児童が増えるように思います。私学に行く児童が少ないのは、校区の中学校の取り組みが良いことや、学校が落ちついて学習できる場になっているからだと思います。

選択できるのは、いいかもしれないが、それによって学校の生徒数のバラつきがあり、子供がかわいそう。行事や部活などに支障がでる！

選択制は有意義である。学校間でよい意味での競争を行いよりよい教育を行うべきである。

クラブ活動で選択するケースが多く学力向上には関係ないと感じる。選択制により校区外の学校に行った場合の保護者と地域のコミュニティーが分断され、PTA及び地域活動の妨げになり選択制が必要だと思えない

など

「校区外の学校(学校選択制)」を選択した方のご意見

学校を選ぶのはとても良い事だと思われます。人数の少ない学校は合併する等して、クラブを増やしたり、PTAの負担を少なくしていかないと、5年後、10年後が辛いと思います。

仮に抽選となってしまった場合、抽選に落ちたら校区内の学校に行かなければいけない。とかではなく第2希望の学校へ行ける等にする方が良いと思う。なぜならイジメまでにはつながってなくとも、交友関係について悩んでる子供が届けば、学校へ行くのが苦痛とを感じるかもしれないから。

できるだけ抽選なしで希望の学校へ通学できるようになれば良いと思う。

校区内の中学を希望していたが、部活動の縮小(入部受入停止)により選択制を利用した。校区内の中学では入部できる部活が少ない。少子化なのでしょうがないが統合などによる部活動の充実は検討してほしい。中学生活で部活の占める役割は大きい。

など

戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援 家庭学習の促進

- ・学校の長期休業期間中に自習室を開設(春休みには下記の無料動画授業も体験)
- ・家庭学習の手引き、みなりん学習ドリル 作成・配布
- ・港エンパワメント塾開設(10月末～2月 2ヵ所)
- ・インターネット上の無料動画授業や教材のリスト化によるホームページ掲載
と抜粋版の配布
- ・塾代助成事業者への広報協力

【平成30年度の目標】

各中学校で実施するアンケートにおいて、家庭学習や予習・復習の状況を問う設問に対し、肯定的回答が、平成28年度を基準として改善している学校

3校以上 5校(全校)

戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援 地域の強みを活かした教育力向上

- ・スケート教室等を学校と協働実施 4回
- ・海遊館での生物教室を学校と協働実施 6回
- ・絵本による読書活動促進事業スタートアップ(絵本ひろば)の実施 24回
- ・こどもサイエンスカフェの実施 5回
 - 築港中学校と協働したロボットプログラミング 3回(8月)、環境局との共催 2回(8月、10月)
- ・「海の学び舎」あらかると啓発事業の実施 4校
- ・学校へ、港区で活躍している方等を講師招派遣 1回
- ・高校生向け公民連携による科学実験教室 1回

【平成30年度の目標】

各取組メニューの提供先となる対象(学校や参加者など)へのアンケートにおける肯定的意見: 70%以上 **学校100%、参加者96.4%**

絵本ひろばの様子



こどもサイエンスカフェ ロボットプログラミングの様子



戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援 多文化共生教育スタートアップ事業

- ・多文化共生教育に利用できるデジタルコンテンツ等の収集
- ・帰国・来日等の児童生徒への補習及び継承語やルーツの国・地域の文化の学習機会を提供するエンパワメント教室を開設（2カ所 八幡屋小、三先小） 12回
- ・多文化カフェ **実施できなかった**

【平成30年度の目標】

多文化カフェへの参加児童生徒へのアンケートで「多文化共生に関心をもった」と回答する割合:60%以上 **未実施のため未測定**

【目標未達成の原因分析】

多文化カフェ実施にかかる特定財源(自治体国際化協会からの助成金)が獲得できず、他の事業の執行状況を見極めながら年度後半の実施に向け委託発注したが、プロポーザルへの参加事業者が現れず、多文化カフェを実施できなかった。

【改善策】

特定財源を得て委託実施するのではなく、本年度のエンパワメント教室に協力いただいた有償ボランティアとの連携や留学生の活用により**コストを抑えることで継続可能な形での多文化交流の場の提供を検討する。**

多文化エンパワメント教室の様子



戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援

学校園における福祉的課題をかかえる児童生徒への支援

- ・スクールソーシャルワーカーの巡回・派遣

区内16校を巡回するとともに、学校園からの要請に基づき派遣 計162日

相談件数 87件(この外、特任分90件)

- ・臨床心理士の小学校配置日数 計15日

- ・教職員を対象とした研修の実施(12月)

【平成30年度の目標】

スクールソーシャルワーカーによって好転した新規ケースの件数

10件以上 16件

戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援 発達障がいサポート等

- ・校外学習や課外活動等において、発達障がいサポーターを配置
(2,537時間)
- ・その他支援を要する児童・生徒へサポーターを配置(212時間)
- ・その他支援を要する児童・生徒へサポーター(帰国・来日等のこどもへの学習サポート等)を配置 (860時間)

【平成30年度の目標】

発達障がいサポート等が「有効」と回答した学校園の割合

100%

100%

戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援

港区サードプレイス・不登校児童生徒支援

- ・子どもの居場所(サードプレイス)の開設 (年間15回)
- ・教育相談の実施(月1回)
- ・講演会「SCによる不登校の理解と子どもへの接し方」を実施(1回)
- ・別室登校等サポートなど(不登校児童生徒等アウトリーチ型支援を含む)配置(464日、1,670時間)

【平成30年度の目標】

各中学校でそれぞれ実施するアンケートにおいて、学校生活の楽しさや通学意欲を問う設問に対し、否定的回答をした生徒の割合が、平成28年度を基準として改善している学校が3校以上 **3校**

戦略4 - 1 「子どもの学び」の応援 青少年の健全育成の推進

- ・青少年指導員・青少年福祉委員の委嘱業務にかかる活動交付金を交付
- ・青少年指導員による夜間巡視活動「指導ルーム」の実施
- ・「青少年育成推進会議」による講演会の実施(1校2回)
- ・「青少年育成推進会議」における夜間巡視等(7・8月):全中学校校区で実施
- ・各中学校下育成推進会議の実施(5校 延6回)
- ・「こども110番の家」協力家庭・事業所等を表示した地図の小学校への配布及びHPへの掲載
- ・青少年育成推進会議内アンケート・意見交換会の実施

【平成30年度の目標】

区民モニターアンケートによる

「1年間でこどもの健全育成の活動に参加したことがある」と回答する割合

23%以上 10.2% 未達成

【目標未達成の原因分析】

- ・「こどもの健全育成の活動」の具体的な内容が広く周知されていない
- ・「こども110番の家」協力家庭・事業所等の新規登録の働きかけが不十分

【改善策】

- ・区HPや広報紙の外、地域の広報にも働きかけ、認知度の向上を図るとともに、具体的な活動内容についても継続的に広報することで、他団体との円滑な連携を図る。
- ・「こども110番の家」の活動に関して、区・各小学校・各地域の役割の明確化、3者間の情報共有の徹底と相互連携による各種取組の効果的・効率的な推進。
- ・積極的な広報活動や各種取組の推進を通じて新たな担い手の参画を促進する。